

昨年10月乳がんパス勉強会以後パス運用を一部変更しました



変更点

- 腫瘍マーカー採血は原則拠点病院で実施（連携医療機関では原則測定なし）例外：術前値が高いなどの場合は診療情報提供書でお願いさせて頂く場合があります。
- 低リスク症例はCT検査、腫瘍マーカーなどを省く
- 5年目以降のCT検査は必要な方のみ実施

連携患者さんは、早期がんで再発のリスクが低い症例です。被ばく量や偽陽性の問題もあり、CT検査やPET検査など画像検査や腫瘍マーカーは必要な時に拠点病院で行う方針としました。患者さんには再発の早期発見よりも、再発の芽が潜んでいる可能性のある手術後に、しっかりと再発予防目的の治療を受けることが大切であることを伝えていきます。

現在、新規導入患者さんと5年目以降パス連携継続の患者さんより運用しており、連携依頼時に送付させているパスシートの内容を一部変更しております。

パス運用変更後17名の連携患者さんをお願いさせて頂いております。

アウトカム

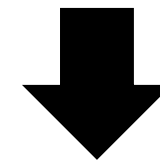
医療者用：生活習慣病（高血圧・糖尿病・高脂血症）の発症と進展を防ぐ。
患者さん用：生活習慣病を予防または悪化を防ぎましょう。

拡大

わたしの目標（例）

- 体重 (55 kg)
- 血圧 (135/85 mmHg)
- 血糖・HbA1c ((空腹時)110mg/dl)
- 中性脂肪 (140mg/dl 未満)
- その他 (LDL-Cho140mg/dl 未満)

- * 投薬間隔は1~3か月（連携医の判断で）
- * 腫瘍マーカーは基本的に拠点病院で検査を行います
- * 婦人科検診、腹部エコーなど連携医で行われる場合もあり
- * 病院受診時は、連携医と担当医で紹介状をやりとりする
- * 治療目標は連携医と患者で相談して決める



生活習慣病に関する検査・診察を必須項目としました。

パスシートのご紹介

患者ID: _____ 患者氏名: _____		わたしの目標		* 投薬間隔は1~3か月（連携医の判断で）	
乳がん術後ホルモン治療における連携パス（患者さん用）		体重 ()	血圧 ()	* 腫瘍マーカーは基本的に拠点病院で検査を行います	
達成目標		血糖・HbA1c ()	LDLコレステロール ()	* 婦人科検診、腹部エコーなど連携医で行われる場合もあり	
1. 定期受診・検査を受けましょう		中性脂肪 ()	その他 ()	* 病院受診時は、連携医と担当医で紹介状をやりとりする	
2. 『私のカルテ』を活用し、体調に注意し記録しておきましょう		* 治療目標は連携医と患者で相談して決める			
3. 生活習慣病にも注意していきましょう					
術式	<input type="checkbox"/> 全摘 <input type="checkbox"/> 部分切除 <input type="checkbox"/> 乳房温存 <input type="checkbox"/> 乳房切除	内分泌剤	<input type="checkbox"/> TAM/TOR剤 <input type="checkbox"/> AI剤	放射線治療	<input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし
連携・連絡	術後連携の説明 併存疾患・処方内容の確認 再発、副作用等発生時の連絡先確認	術後連携の開始	松江日赤 手術日 年月日	連携医 ~5ヶ月 年月日	松江日赤 6ヶ月 年月日
診察	問診 問診表を参照	術後連携の開始	松江日赤 1年 年月日	連携医 1年1~5ヶ月 年月日	松江日赤 1年6ヶ月 年月日
検査	視触診 患側乳房 腫瘍、硬結、発赤の有無 腋窩 リンパ節の大きさ 鎖骨上窩 リンパ節の大きさ 頸部 リンパ節の大きさ 対側乳房 腫瘍、硬結、発赤の有無 患側上肢 リンパ浮腫・炎症の有無	検査	末梢血一般 生化学 腫瘍マーカー (CEA, CA15-3) (6カ月毎)	検査	マンモグラフィ 乳房エコー 胸部骨盤CT/PET/骨シンチ (腹部エコー) 婦人科検診 (TAM/TOR剤服用時) 骨密度測定 (AI剤服用時)
投薬	生活習慣病に関する検査・診察	投薬	処方薬 (AM/TOR) (年月日 ~ 年月日)	投薬	注射薬 (年月日 ~ 年月日)
説明	併用薬チェック	投薬	併用薬チェック	投薬	併用薬チェック
支援	患者用パス	説明	必要に応じて適宜説明	説明	必要に応じて
	他臓器がんの検診について	説明	必要に応じて	説明	必要に応じて
	副作用対策	説明	必要に応じて	説明	必要に応じて

生活習慣病の予防と悪化を防ぐ取り組みとして『私のカルテ』に平成25年7月から取り入れています。連携医の先生方には「わたしの目標」を設定お願いさせて頂いています。具体的な数字があることで患者さん・連携医・拠点病院が同じ目標で取り組むことができます。引き続きよろしくお願い致します。

コーディネーター看護師より
コーディネーターは現在、連携患者さんの健康管理に対する意識づけへの支援をしています。受診時に患者さんから生活背景や健康管理状況などを伺い、生活習慣病予防に継続していきけるプランを一緒に考えています。今年度、連携患者さんを対象にした生活習慣病予防への意識調査を計画しています。今後、ご報告の機会を頂きたいと思っています。今後も連携パス運用へのご理解、ご協力をよろしくお願い致します。ご不明な点等ございましたらいつでもご連絡頂けたらと思います。

連絡先：松江赤十字病院
地域連携課
TEL：0852-32-7813
FAX：08582-27-9261

連携パスだより ~がん地域連携パス編~ NO. 10



2019.3月吉日

早春の候、先生を初めスタッフの方々におかれましては、ますますのご清祥のこととお喜び申し上げます。平素は、がん地域連携クリティカルパスの運用に格別のご高配を賜り、感謝申し上げます。昨年の「連携パスだより」に続いて、今回は連携医療機関に乳がんパスについてお話を伺うことができましたので、ここに皆さまにご報告させていただきたいと思っております。

今回お話を伺ったのは、内田クリニック・内田明子先生です。お忙しい中インタビューを快く引き受けて頂きました。先生には、平成23年のがん地域連携パス開始当初から乳がんパスの連携診療をして頂き、現在術後5年を経過した患者さんも継続して診て頂いています。今回、連携医療機関の立場からご意見を聞くことができました。



メリット

パスに沿って診療するので、検査や紹介状作成の時期がわかりやすい。患者さんと診療スケジュールを共有できるので伝えやすいのもよい。

『生活習慣病』対応のパスについて

生活習慣病と合わせて診察することで患者さんに関わるきっかけになり、患者背景、基礎疾患を含め、術後のストレスについても自然な流れで聞くことができ、開業医のメリットに繋がっている。生活習慣病からの関わりで治療を継続できるよう、モチベーションを保ち続けることができるよう支援している。

5~10年目パスに対する意見

基礎疾患があり加療継続している方が多いので、ホルモン療法が終了した後もパス連携で診療していくことはよいことだと思う。

勉強会への要望・提案

妊孕性保存の考え方、動きについて取りあげてもらいたい。

『生活習慣病』対応パスになったことで、内科医としての役割が明確になり関わりがもちやすくなったと評価して頂いたように感じました。自身のことを表出されないような方にも、女性医師として女性患者が抱える子育て問題、介護負担などの悩み、体調の変化にもこまやかに気遣われ、対応して頂いていることが伝わってきました。

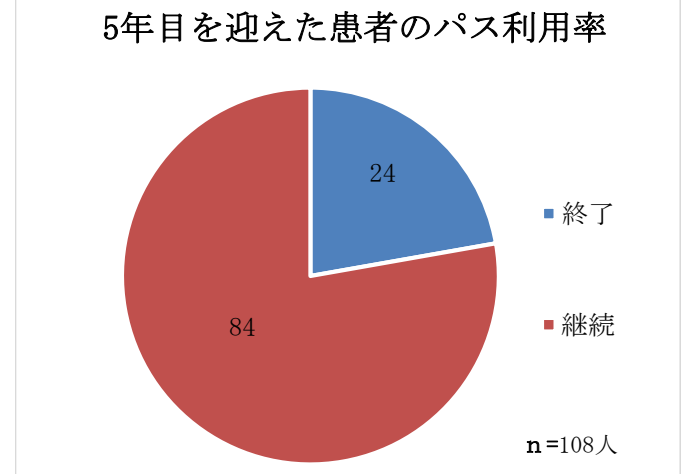
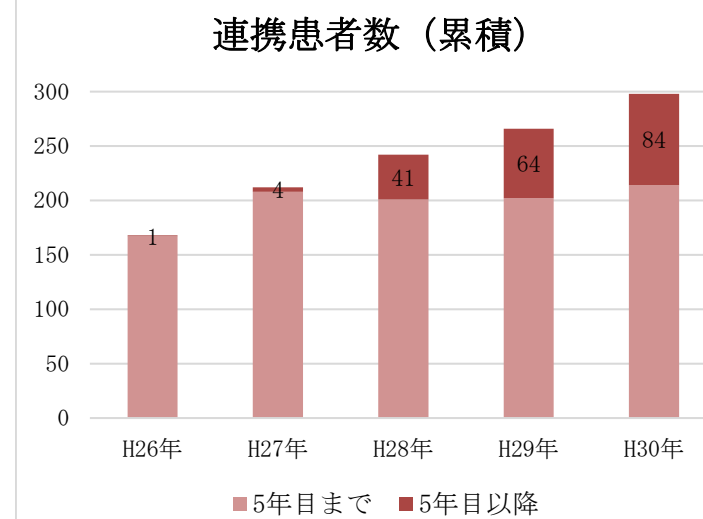


当院に乳腺外科医師が増えました☆川又あゆみ先生のご紹介☆

1月から乳腺外科に勤務させていただいております川又あゆみと申します。私は平成23年に自治医科大学を卒業しまして、初期研修を終えた後に隠岐病院、飯南病院、邑智病院の総合診療科として勤務して参りました。この度、学生時代から長年興味を抱いていました乳癌の勉強をここ松江日赤でスタートしました。今まで地域の病院では、手術後、化学療法後のフォローや不安の軽減、また地元で最期を迎えたいと帰ってこられた終末期の方々のサポート、環境調整をチームで行って参りました。乳腺外科医として未熟ですが、今までの経験を少しでも生かし、そしてこれから知識をしっかりと身につけていきたいと思っておりますので、ご指導の程よろしくお願い致します。



乳がん地域連携パス運用状況



平成30年度の累積患者数298名となりました。年間30名程度の新規連携患者さんをお願いさせてもらっています。5年目迎えられた約8割の患者さんがパスの継続を希望されています。連携医療機関件数も年々増加し79施設となりました。これも連携医療機関の皆様のご協力のおかげだと思っております。